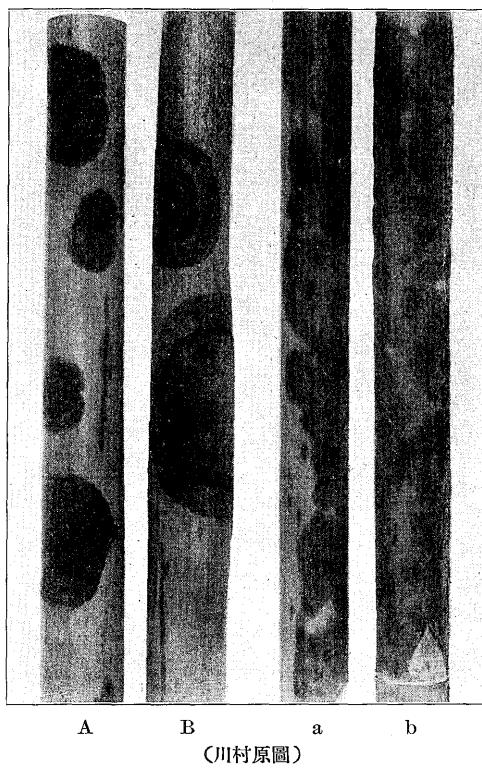


とぞけトハ外形甚ダ異リ寧ロ甚ダ屢々前種ト混雜サル、ニヨリ如上ノ新和名ヲ撰ンダ次第デアル、本地衣ハ吾國各地ニ最モ普通ナル種ニ屬シ往々掌大ニ廣ガルモノアリ多數ノ瓣片ニ分レ表面灰褐色乃至褐色裏面ニ暗褐色ノ絨毛ヲ密生シ邊縁ニ黃金色ノ粉芽ヲ以テ緣取ルコトきんぶちぞけト同ジ、裏面ノ擬盃點亦黃粉ヲ吐ク、但きんぶちぞけノ綠顆粒ガ原球藻デアルニ對シヨレノハ念珠藻デアル、本種ニ二變種アリ邊縁並ニ裏面ニ粉芽ヲ有スルモノヲ var. aurigera Del. トナシ粉芽邊縁ノミノモノヲ var. xantholoma Del. ト云フ、然シ中間ノモノ亦尠ナカラズ、又本種ノ子器モ矢鱈ニ出會ハナイモノデ予ハ富士須走、臺灣デ見付ケ前原勘次郎君ハ肥後デ之ヲ獲タツアールブルックナ博士ハ余ノ送ッタ富士產標本ノ有子器ノモノヲ Sticta crocata ACH. レ検定シタガドウモ納得シ兼ネル S. crocata モ外見大ニ似テ居ルガ胞子ガ一室デ Mouggeotiana ノ四室ナルノト異ル而シテ余ノ標品ハ幼稚ノモノハ一室デアルガ充分生育シタ胞子ハ皆四室デアルカラデアル、ニせんぶちぞけノ「ゴニチア」層ニ接スル髓層ノ菌絲中所々ニちよろぎ形ヲシタ膨脹セル細胞ガアル、コレハ crocata リヤアルガモんぶちぞけ (S. aurata) ハナイ

## ○内地産虎斑竹ト臺灣産豹紋竹トノ寫眞

理學博士 川 村 清 一

本誌第四卷第五號ニ載セタル拙稿『臺灣産斑竹(豹紋竹)菌ノ卑說』ノ中ヘ内地産虎斑竹ト臺灣産豹紋竹トノ寫真ヲ入レテ置イタガ更ニ此ニツヲ撮影シタカラ重出ニハナルガ無イヨリハ有ル方ガ参考ニナルト思ヒ重複ヲ厭ハズ再ビ此處ニ掲出シタ  
即チ A ハ内地産虎斑竹デ菌絲塊ヲ除去シ磨キテ其斑紋ヲ現出セシメタモノ  
B ハ同ジク菌絲塊ガ附着シタ天然ソノマヽノモノデ共ニ寄生ノ竹ハなりひらだけ即チ Semiarundinaria fastu-



osa MAKINO. デアル

a ハ臺灣產豹紋竹デ菌絲塊ヲ除去シ磨キテ  
モノデ共ニ其寄主ハ臺灣所產ノ竹せいかく  
ちく即チ Bambusa Shimadai HAYATA. デ  
アル

## ○瑞西ニトカワカルン 採種ノ記

〔牧野曰フ、左ニ掲ケル藤田、關根兩君ノウワウルシ

ニ就テノ記事ヘ今獨逸ニ留學中ノ藤田直市君カラ東

京帝國大學理學部小石川植物園ノ松崎直枝君宛デ同

園ヘウワウルシノたねヲ送リ來ッタ時ソレト一縁ニ

送リ越シタモノデ松崎君カラ我ガ植物研究雑誌ヘ轉送シテ來タカラ喜ンデ此ニ載スルコトニシタ尙右藤田君ノ書信ノ中ニハ「此植物は利尿藥殊に癆病にサンタル(白檀)油と併用するので利尿に兼て尿道の防腐藥とするのです。我國にはないので樺太の北に工藤氏が見附けた者です。それでも日本へは年額少くも十萬圓多ければ十數萬圓の輸入のある品です十萬圓は少い様ですが過去二三十年に三百萬乃至五百萬圓の金が出て居ますので今度探しした譯ですが生育状態や其他の事情を二重に述べるのも面倒故私共の苦辛と生育状況を一應同封原稿で御了解願ひたいのです……ウワウルシの種の輸入は從来寡聞にしてまだ知りませぬ自分等が初めかも知りませぬ萬一貴君が發芽せしめないと本當に恨みますよ全く命懸げで取たのですハハハ所で私の考へては高山にあり伯林ダーレムの植物園ではロックガーデンにありますからこれは植物園ならロックガーデン或は日光の方にやり發芽後は適當な所(高山)(保護地)へ植ゑて野生状態とし五十年百年の